

パソコンの謎の不具合と、私が未練なく放棄したもの

Greatchain

August 25, 2025

私のようにパソコンで物を書く人々は、このタイトルを読んでハッと思うかもしれない。私はこの馬鹿ばかしい問題に長いこと苦しんだ。恥ずかしいほど電気屋さんを煩わせた。しかしそれでも問題は解決していない。

詳しい技術的なことは省くとしよう。しかし私の最も纖細な秘密であるいくつかの問題が、よく見える場所に堂々と載っているのに驚いた。よく読むと、これは「あなただけの私用」の欄だと書いてある。しかしこれは便宜のための、私が「よく言及する」問題ではない。これは完全に私信が盗まれていることを意味するもので、文通相手の名前が載っている。のみならず、かなり前に私の載せた重要事項が載っている。私はこれを秘密にしたわけではなく、啓蒙のために公表したのだが、それでもこれは、他人が断りもなく使用すべきものではない。

電気屋さんにこれを話すと、「最近はみなそうなっているのですよ、私も邪魔だから消しています」と、当然のように言っていた。私は彼とは違って「政治的」な活動をする人間だから、そうはいかない。しかし、どんな人間でもメールで文通していて、他人に聞かれては困ることがあるだろう。はがきでは言えない、手紙で「親展」としなければならない場合があるだろう。

しかし私は考えてみた。今、世界情勢はどうなっているか？ それは明らかに、この世のすべてが暴かれ、隠し事のできない時代に入っている。これはよいことで、混乱があっても、それは良いほうへ向かっているだろう。私は原則として、政治家とは反対に（意識的・無意識的な）秘密というものを全く持たない。これは、そのことをよく知っている誰かが、私を支持してくれているのではあるまいか？ それは私の挙げ足を取るためになく、まったく逆の動機をもつものではあるまいか？

そう考えると、彼が引用している（もちろんクリックによる）、私の最も深い内面を文通相手に告白した、かなり長い文章も、私に対する共感から出ているよう思える。私は万感の思いを込めて、漢字4文字の私のこの名前を、最後まで名乗らないつもりだ、と言った。これは簡単に決意したことではない。

誰か知らない、この人物があげている、私についての（あるいは世界についての）重要な事実は全部で3つあると思う。その一つが、先ほど「啓蒙のために公表した」と言った、私にとっては危ない暴露でもある「ルシファー」を頂点とする三角形である。これは世界の権力者が明らかにしてほしくない秘密の構造で、世界のほとんどすべての公的団体や組織や機関がそこに含まれている。これは時々刻々、情勢が変わっても、基本は変わらないもので、世界の指導者はこれを知らなければ、何も語ることはできない。語るとは暴くということである。私のパソコンにしか入っていないと思っていた、最新版のルシファー（サタン）のヒエラルキー見取り図を、この人が紹介してくれたのは感謝すべきことである。（もっともこれ先に言ったように、一般公開ではない。）

もう一つは、「アラーは偉大なり——ではお前は偉大ではないのか？」という、4月末の私のエッセーを紹介してくれたことである。私はこのあたりの私の考え方を、多くの人々に理解していただきたい。これ一つを取っても、この人が私と興味を共にする知識人だと考えられる。

プレアデス人を初めとする、この方面の異星人の方々は、間違いなく我々をはるかに超えた、しかし十分に我々に理解可能な文化を持つ人々である。このことが、繰り返されるユーチューブ動画からだんだんわかってきた。私は妻とこの小さな家に住んでいるが、そのわずかな経験からだけでも、我々が靈的なものに支配され、我々を気遣ってくれる存在たちに囲まれて生活していることがわかる。これは靈的能力でなく霧囲気である。あえて言えば数年前に比べ、私のこの家は確実に浄化されている。

我々の進化や向上は、彼らが教える通り、確実に内面的な働きによるものである。外からくるものではない。「内面的な心から喜び」が我々の文化を作る。もし「物の時代」に対する「風の時代」があるのだとすれば、それは「制度の改革」などを置き去りにして、一気に花を開くであろう。これは私の体験的予言である。

そこで、「私は自分の名前を最後まで名乗らないつもりだ」と言った信書の言葉を、すっぱ抜かれた問題に移ろう。私は『西郷南洲遺訓』にある、「命もいらず名もいらず、官位もカネもいらない人間は、始末に困るものだ」という言葉を引用して心中を語ったことがある。私も西郷と同じく、何もいらない人間だが、名前（アイデンティティ）だけは、これを放棄するのはご先祖に対して申し訳ないと考え、悩んだことがある。しかし今はそれに悩むことはなくなった。

これは各自が生きている時代の関数の問題である。先日も書いたように、今は「身を立て名をあげ、やよ励めよ」といった言葉が、むしろ空疎・滑稽に響くようになった。「出世」「有名」ということの価値が変わった。残念ながらこれは、「ルシファー」の傘下にいながら、それに気が付かないという、あまりにもうかつな者たちによるものである。

またこれは他者でなく、自分自身の価値の「自覚」の問題である。本当に価値のある仕事をする人々は、おそらく大多数が無名である。イチロー選手は有名だが、彼はおそらく、名人としての自分を本当に理解してくれる人がごくわずかにいればよい、すなわち心の深い喜びがあればよいのであって、名声を愛する大勢の人は問題ではないだろう。

私のパソコンの不具合は今も解決していない。質問箱に質問すると、何かを含んだような曖昧な返事が返ってきた。私は自分にとって肯定的な解釈をしたが、公然と他人の秘密に侵入するということは、何か恐ろしいものを予兆する。明らかに私は自分の活動によって、憎まれる立場にある。今後の私と業界自体に何が起こるか不透明という観点から、これを書いた。